

学生募集要項

2022

令和4年4月入学

【一般入試】

【社会人特別入試】

【外国人留学生特別入試】



大学院 総合医薬学研究科 総合医薬学専攻（修士課程）

- 先端医科学プログラム
- 看護科学プログラム
- 基礎薬学プログラム

令和3年9月

富山大学

新型コロナウイルスの感染拡大等の不測の事態により、試験日程等本学生募集要項の内容を変更する場合があります。変更する必要がある場合は、本学ウェブサイトでお知らせいたしますので、最新の情報を確認するよう留意してください。

<https://www.u-toyama.ac.jp>

目 次

大学院総合医薬学研究科（修士課程）入学者選抜の概要	4
I 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	5
II 一般入試	7
1 入学者選抜日程の概要	
2 募集人員	
3 出願資格	
4 外部英語試験の利用について	
5 先端医科学プログラム入学者選抜方法	
6 看護科学プログラム入学者選抜方法	
7 基礎薬学プログラム入学者選抜方法	
III 社会人特別入試	10
1 入学者選抜日程の概要	
2 募集人員	
3 出願資格	
4 外部英語試験の利用について	
5 先端医科学プログラム入学者選抜方法	
6 看護科学プログラム入学者選抜方法	
IV 外国人留学生特別入試	13
1 入学者選抜日程の概要	
2 募集人員	
3 出願資格	
4 外部英語試験の利用について	
5 先端医科学プログラム入学者選抜方法	
6 基礎薬学プログラム入学者選抜方法	
V 共通事項	15
1 出願期間	
2 出願手続	
3 出願資格認定申請	
4 合格者発表	
5 入学手続	
6 入学志願者の個人情報保護について	
7 出願上の注意事項	
8 安全保障輸出管理について	
9 障害等のある入学志願者の事前相談	
10 新型コロナウイルス感染症対策に伴う入学志願者への要請事項	
・ 入学検定料支払手順	

VI 大学院総合医薬学研究科の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

- 1 先端医科学プログラム
 - (1) 目的, 学位
 - (2) 授業科目及び単位数
 - (3) 教育方法の特例
 - (4) 課程修了の要件
 - (5) 指導教員研究内容一覧
- 2 看護科学プログラム
 - (1) 目的, 学位
 - (2) 授業科目及び単位数
 - (3) 教育方法の特例
 - (4) 課程修了の要件
 - (5) 指導教員研究内容一覧
- 3 基礎薬学プログラム
 - (1) 目的, 学位
 - (2) 授業科目及び単位数
 - (3) 課程修了の要件
 - (4) 指導教員研究内容一覧

本研究科先端医科学プログラム, 看護科学プログラム及び基礎薬学プログラム(修士課程)(令和4年4月入学)の学生募集は, 2回に分けて実施する予定ですが, 第1回の学生募集は, この学生募集要項により実施します。

なお, 第2回の学生募集は, 令和4年2月下旬～3月上旬に実施する予定ですが, 学生募集要項は12月下旬に公表する予定です。

大学院総合医薬学研究科（修士課程）入学者選抜の概要

募集人員

専攻	プログラム名	募集人員		
		一般入試	社会人特別入試	外国人留学生特別入試
総合 医薬学 専攻	先端医科学プログラム	6名	若干名	若干名
	看護科学プログラム	8名	若干名	—
	基礎薬学プログラム	44名	—	若干名
	合計	58名		

注1 各プログラムの募集人員は、概ねの人数です。

注2 入学者選抜は2回実施する予定です。第2回の入学者選抜の募集人員は第1回の募集人員に含みます

入学試験関係日程

事項	総合医薬学専攻 (先端医科学プログラム、看護科学プログラム、基礎薬学プログラム)
	【第1回】 一般入試、社会人特別入試、外国人留学生特別入試
出願資格審査 照会期限 (該当者のみ)	令和3年10月1日(金)
出願資格審査 結果通知 (該当者のみ)	令和3年10月15日(金)まで
出願期間	令和3年10月18日(月)～10月22日(金)
受験票発送 (投函)	令和3年11月2日(火)(予定)
試験日	令和3年11月20日(土)
合格者発表	令和3年12月9日(木)
入学手続 (締切日)	令和4年3月中旬

I 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

総合医薬学研究科 入学者受入れの方針

総合医薬学研究科は、本研究科の目的、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、医療系の研究分野についての強い関心と基礎的能力を有し、論理的思考力と創造性を持ち、人と地の健康文化の進展に寄与しようとする意欲を備えている者を受け入れる。

そのため入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供する。

先端医科学プログラム 入学者受入れの方針

- ・生命科学に興味を持ち、医学の基礎・臨床分野における基礎知識を修得し、最先端の知識に触れることにより、高度な専門職業人として様々な分野で活躍したい学生を求める。
- ・医療系の社会人として、最先端の医学知識の涵養を図り、職場でのキャリアアップを図りたい学生を求める。

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

一般入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験、口述試験、志望理由書及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

社会人特別入試

入学者の選抜は、業績審査、外国語（英語）試験、口述試験、志望理由書及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

外国人留学生特別入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験、口述試験、志望理由書及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

看護科学プログラム 入学者受入れの方針

看護学とその学際領域における幅広く深い学識を持ち、研究遂行能力または高度で専門的な職業人に必要な能力を養うという目的を理解し、次の資質をもつ学生を求める。

- (1) 高度な先端医療に対応できる技術、心理や生命倫理など全人的な理解、人々のQOLや自己回復を引き出す能力、保健医療福祉の課題などの熟達した対応が求められる分野で活躍したいと考えている者
- (2) 看護の現状認識と将来の展望にたつて保健医療福祉の課題を総合的・組織的に把握し、課題に対応できることを目指す優れた看護実践のためのキャリア形成を求めている者

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

一般入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験及び口述試験の成績により、高度な看護実践能力と看護研究方法を修得するための基盤となる基礎的な知識、研究遂行能力等を評価する。

社会人特別入試

入学者の選抜は、業績審査、外国語（英語）試験及び口述試験の成績により、高度な看護実践能力と看護研究方法を修得するための基盤となる看護実践実績及び(業務)研究実績、研究への関心・遂行能力等を評価する。

基礎薬学プログラム 入学者受入れの方針

将来、薬科学関連領域の研究者・教育者・技術者、及び医薬品の開発や普及を担う専門家として、人々の健康と学術研究の進歩に貢献できる人材を育成することを目的としている。そのためには、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観の下で、薬科学に関する幅広い学識と高い専門性を備え、それらを統合、応用して創造性の高い研究を遂行する能力を身に付けることが必要である。この目的に基づき、本プログラムでは以下のような学生を求める。

- ・薬科学及び学際的領域で活躍する研究者・教育者・技術者を志す者
- ・創薬科学、生命科学に関する専門知識を有する者
- ・研究を通じて、薬科学関連領域の諸課題を解決し、人々の健康と学術研究の進歩に貢献したいという意欲を持つ者
- ・国内外の研究者に対して研究の内容やその価値を説明、議論できるコミュニケーション力、表現力を持つ者

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

一般入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験、口述試験及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

外国人留学生特別入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験、口述試験及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

II 一般入試

1 入学者選抜日程の概要

プログラム	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続(締切日)
先端医科学 プログラム	令和3年 10月18日(月) ～10月22日(金)	令和3年 11月20日(土)	令和3年 12月9日(木)	令和4年3月中旬
看護科学 プログラム				
基礎薬学 プログラム				

2 募集人員

プログラム名	募集人員	備考
先端医科学 プログラム	6名	募集人員には社会人特別入試及び外国人留学生特別入試の募集人員(若干名)を含みます。
看護科学 プログラム	8名	看護科学プログラムには、研究者コース, 専門看護師(CNS/がん・母性)コース及びナースプラクティショナー(NP)コースがあります。 募集人員には、社会人特別入試の募集人員(若干名)を含みます。
基礎薬学 プログラム	44名	募集人員には外国人留学生特別入試の募集人員(若干名)を含みます。
計	58名	各プログラムの募集人員は、概ねの人数です。

(注) 入学志願者は、事前に志望する分野の指導教員と教育・研究等に関する方向性等について、必ず相談してください。志望する指導教員が未定の場合は出願できません。

3 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とします。なお、看護科学プログラムのナースプラクティショナー(NP)コースに出願する場合は、この要件の他に、5年以上の看護職としての経験があること及び日本国の看護師の免許を有することが必要です。

- (1) 大学を卒業した者及び令和4年3月までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び令和4年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和4年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和4年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和4年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我

が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和4年3月31日までに授与される見込みの者

(7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び令和4年3月までに修了見込みの者

(8) 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)

(9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、その後に入学者を本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると本研究科において認めたもの

(10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時に22歳に達しているもの

(11) 令和4年3月31日で大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したと本研究科が認めた者
(注) 出願資格(9)~(11)で出願しようとする者は、事前に出願資格審査を行うので、17ページ「3 出願資格認定申請」を参照し、所定の手続きを行ってください。

4 外部英語試験の利用について

一般入試においては外国語(英語)の筆記試験を行わず、提出された外部英語試験のスコアを100点満点に換算した点数を成績とします。

複数の試験を受験している場合は、換算点の高いものを利用します。

なお、利用するスコアは令和元年9月1日以降※の試験を受験したものに限りません。

※看護科学プログラムのみ受験日の制限はありません。

スコアの換算方法

・ TOEFL-iBT

70以上=100点

70未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times (\text{TOEFL-iBTのスコア}) / 70$$

・ TOEFL-ITP

525以上=100点

525未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times \{ (\text{TOEFL-ITPのスコア}) - 310 \} / 215$$

310以下=0点

・ TOEIC L&R, TOEIC L&R-IP

730以上=100点

730未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times (\text{TOEICのスコア}) / 730$$

5 先端医科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験(8ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照)、口述試験、志望理由書及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価します。

(1) 筆記試験

小論文・適性検査

・志望動機、研究計画、先端医科学研究に関する興味や関心、倫理観などについて問います。

(2) 口述試験

・筆記試験での解答を踏まえ、志望動機、これまでに学修してきた内容を大学院でどのように活かすのか、研究計画、修了後の希望や社会貢献の予定、等について面接形式で問います。

(3) 試験日程及び試験場

月 日 (曜)	時 間	試験科目等	試験場
令和3年 11月20日(土)	11:00～12:00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷(医薬系)キャンパス
	13:30～	口述試験 ※	

※ 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を送付する際にお知らせします。

6 看護科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語(英語)試験(8ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照。)及び口述試験の成績により、高度な看護実践能力と看護研究方法を修得するための基盤となる基礎的な知識、研究遂行能力等を評価します。

(1) 筆記試験

外国語 英語(英和辞書持込み可。ただし、電子辞書、看護・医学辞書は除く。)

※1 外部英語試験を利用する場合、外国語(英語)の筆記試験は課しません。(注)

小論文・適性検査

・適性検査として志望する分野に関する基礎的な知識を問います。

(2) 口述試験

・大学院入学への志望動機、研究意欲等を問います。

(3) 試験日程及び試験場

月 日 (曜)	時 間	試験科目等	試験場
令和3年 11月20日(土)	9:30～10:30	外国語(英語) ※1	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷(医薬系)キャンパス
	11:00～12:00	小論文・適性検査	
	13:30～	口述試験 ※2	

※2 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を送付する際にお知らせします。

(注) 令和6年4月以後の看護科学プログラムの入試では、外国語(英語)の筆記試験は行いません。外部英語試験を事前に受験する必要があります。

7 基礎薬学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験（8ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照。）、口述試験及び成績証明書の内容により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価します。

(1) 筆記試験

小論文・適性検査

・適性検査として志望する分野に関する基礎的な知識を問います。

(2) 口述試験

・大学院入学への志望動機、研究意欲等を問います。

(3) 試験日程及び試験場

月日(曜)	時間	試験科目等	試験場
令和3年 11月20日(土)	11:00～12:00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷(医薬系)キャンパス
	13:30～	口述試験 ※	

※口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を送付する際にお知らせします。

III 社会人特別入試

1 入学者選抜日程の概要

プログラム	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続(締切日)
先端医科学プログラム	令和3年 10月18日(月) ～10月22日(金)	令和3年 11月20日(土)	令和3年 12月9日(木)	令和4年3月中旬
看護科学プログラム				

※基礎薬学プログラム志望者で社会人である者は、一般入試を受験してください。

2 募集人員

プログラム名	募集人員	備考
先端医科学プログラム	若干名	募集人員は一般入試の募集人員に含みます。
看護科学プログラム	若干名	募集人員は一般入試の募集人員に含みます。

(注) 入学志願者は、事前に志望する分野の指導教員と教育・研究等に関する方向性等について、必ず相談してください。志望する指導教員が未定の場合は出願できません

3 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者で、社会人として3年以上の実務経験及び研究発表等の業務実績を有するものとします。なお、看護科学プログラムのナースプラティクショナー(NP)コースに出願する場合は、これらの要件の他に、5年以上の看護職としての経験があること及び日本国の看護師の免許を有することが必要です。

- (1) 大学を卒業した者
 - (2) 学校教育法第104条第7項の規定により独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者
 - (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
 - (9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、その後に入学者を本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると本研究科において認めたもの
 - (10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時に22歳に達しているもの
- (注) 出願資格(9)、(10)で出願しようとする者は、事前に出願資格審査を行うので、17ページ「3 出願資格認定申請」を参照し、所定の手続きを行ってください。

4 外部英語試験の利用について

先端医科学プログラムにおいては外国語（英語）の筆記試験を行わず、提出された外部英語試験のスコアを100点満点に換算した点数を成績とします。

看護科学プログラムにおいては、外部英語試験のスコアを提出した者には外国語(英語)の筆記試験を行わず、提出されたスコアを100点満点に換算した点数を成績とし、外部英語試験のスコアを提出できない者には外国語（英語）の筆記試験を実施します。

複数の試験を受験している場合は、換算点の高いものを利用します。

なお、利用するスコアは令和元年9月1日以降※の試験を受験したものに限りです。

※看護科学プログラムのみ受験日の制限はありません。

スコアの換算方法

・ TOEFL-iBT

70以上=100点

70未満の場合

換算点=100×(TOEFL-iBTのスコア)÷70

・ TOEFL-ITP

525以上=100点

525未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times \{ (\text{TOEFL-ITPのスコア}) - 310 \} / 215$$

310以下=0点

・ TOEIC L&R, TOEIC L&R-IP

730以上=100点

730未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times (\text{TOEICのスコア}) / 730$$

5 先端医科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、業績審査、外国語（英語）試験（11ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照）、口述試験、志望理由書及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価します。

(1) 口述試験

・志望動機、先端医科学研究に関する興味や関心、これまでに学修してきた内容を大学院でどのように活かすのか、研究計画、倫理観、修了後の希望や社会貢献の予定、等について面接形式で問います。

(2) 試験日程及び試験場

月 日 (曜)	時 間	試験科目等	試験場
令和3年 11月20日(土)	13:30～	口述試験 ※	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス

※ 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を送付する際にお知らせします。

6 看護科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、業績審査、外国語（英語）試験（11ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照。）及び口述試験の成績により、高度な看護実践能力と看護研究方法を修得するための基盤となる看護実践実績及び（業務）研究実績、研究への関心・遂行能力等を評価します。

(1) 筆記試験

外国語 英語（英和辞書持込み可。ただし、電子辞書、看護・医学辞書は除く。）

※1 外部英語試験を利用する場合、外国語(英語)の筆記試験は課しません。(注)

(2) 口述試験

・大学院入学への志望動機、研究意欲等を問います。

(3) 試験日程及び試験場

月 日 (曜)	時 間	試験科目等	試験場
令和3年 11月20日(土)	9:30～10:30	外国語（英語）※1	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	13:30～	口述試験 ※2	

※2 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を送付する際にお知らせします。

(注) 令和6年4月以後の看護科学プログラムの入試では、外国語（英語）の筆記試験は行いません。外部英語試験を事前に受験する必要があります。

IV 外国人留学生特別入試

1 入学者選抜日程の概要

プログラム	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続(締切日)
先端医科学 プログラム	令和3年 10月18日(月) ～10月22日(金)	令和3年 11月20日(土)	令和3年 12月9日(木)	令和4年3月中旬
基礎薬学 プログラム				

2 募集人員

プログラム名	募集人員	備考
先端医科学 プログラム	若干名	募集人員は一般入試の募集人員に含みます。
基礎薬学 プログラム	若干名	募集人員は一般入試の募集人員に含みます。

(注) 入学志願者は、事前に志望する分野の指導教員と教育・研究等に関する方向性等について、必ず相談してください。志望する指導教員未定での出願はできません。

3 出願資格

外国籍を有する者で、次の各号のいずれかに該当する者としてします。

- (1) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和4年3月までに修了見込みの者
- (2) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和4年3月までに授与される見込みの者
- (3) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時に22歳に達しているもの
- (4) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、その後に入学者となる本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると本研究科において認めたもの

(注) 出願資格(3)、(4)で出願しようとする者は、事前に出願資格審査を行うので、17ページ「3 出願資格認定申請」を参照し、所定の手続きを行ってください。

4 外部英語試験の利用について

外国人留学生特別入試においては、外部英語試験のスコアを提出した者には外国語(英語)の筆記試験を行わず、提出されたスコアを100点満点に換算した点数を成績とし、外部英語試験のスコアを提出できない者には外国語(英語)の筆記試験を実施します。

複数の試験を受験している場合は、換算点の高いものを利用します。

なお、利用するスコアは令和元年9月1日以降の試験を受験したものに限りです。

スコアの換算方法

・ TOEFL-iBT

70以上=100点

70未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times (\text{TOEFL-iBTのスコア}) / 70$$

・ TOEFL-ITP

525以上=100点

525未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times \{ (\text{TOEFL-ITPのスコア}) - 310 \} / 215$$

310以下=0点

・ TOEIC L&R, TOEIC L&R-IP

730以上=100点

730未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times (\text{TOEICのスコア}) / 730$$

5 先端医科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験（13ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照）、口述試験、志望理由書及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価します。

(1) 筆記試験

小論文・適性検査

・ 志望動機、研究計画、先端医科学研究に関する興味や関心、倫理観などについて問います。

外国語(英語)

※1 外部英語試験を利用する場合、外国語(英語)の筆記試験は課しません。

(2) 口述試験

・ 筆記試験での解答を踏まえ、志望動機、これまでに学修してきた内容を大学院でどのように活かすのか、研究計画、修了後の希望や社会貢献の予定、等について面接形式で問います。

(3) 試験日程及び試験場

月 日 (曜)	時 間	試験科目等	試験場
令和3年 11月20日(土)	9:30~10:30	外国語(英語) ※1	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷(医薬系)キャンパス
	11:00~12:00	小論文・適性検査	
	13:30~	口述試験 ※2	

※2 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を送付する際にお知らせします。

6 基礎薬学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験（13ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照。）、口述試験及び成績証明書の成績により、4年制学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価します。

(1) 筆記試験

小論文・適性検査

- ・適性検査として志望する分野に関する基礎的な知識を問います。

外国語(英語)

- ※1 外部英語試験を利用する場合、外国語(英語)の筆記試験は課しません。

(2) 口述試験

- ・大学院入学への志望動機、研究意欲等を問います。

(3) 試験日程及び試験場

月日(曜)	時間	試験科目等	試験場
令和3年 11月20日(土)	9:30~10:30	外国語(英語) ※1	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷(医薬系)キャンパス
	11:00~12:00	小論文・適性検査	
	13:30~	口述試験 ※2	

※2 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を送付する際にお知らせします。

V 共通事項

1 出願期間

令和3年10月18日(月)~10月22日(金)午後4時までに必着とします。

持参する場合は、平日の午前9時から午後4時までの間、受け付けます。

なお、郵送の場合も10月22日(金)午後4時まで

に必着とします。ただし、10月21日(木)以前の消印(日本国内の郵便の消印に限る。)のある書留速達郵便に限り、出願期間以降に到着した場合でも受理します。

2 出願手続

(1) 出願方法

入学志願者は「検定料」の納付を済ませた上で、次の区分により記載事項を封筒に朱書きし、出願書類等を所定の期日までに下記あてに提出してください

なお、郵送の場合は書留速達郵便としてください。

「出願書類等提出先 〒930-0194 富山市杉谷2630番地

富山大学 医薬系学務課(入試担当)」

また、「検定料」の納付方法については、「(3) 検定料の納付方法」を参照してください。

〈封筒記載事項〉

一般入試 : 「(希望するプログラム名) 一般入試 入学願書在中」

社会人特別入試 : 「(希望するプログラム名) 社会人特別入試 入学願書在中」

外国人留学生特別入試 : 「(希望するプログラム名) 外国人留学生特別入試 入学願書在中」

(2) 出願書類等

	書 類 等	摘 要
①	入学願書	本学所定の様式によります。
②	志望理由書 (先端医科学 プログラム志願者のみ)	本学所定の様式によります。
③	卒業(見込)証明書	出身大学(学部)長が作成したもの(本学学部出身または本学学部卒業見込者は不要)
④	成績証明書	出身大学(学部)長が作成し厳封したもの ただし、偽造・複写防止用紙使用の場合は厳封不要です。
⑤	受験票・写真票	本学所定の様式によります。写真(上半身、無帽、正面向、単身とし、出願前3か月以内に撮影したもの(縦4cm、横3cm))を写真欄にはり付けてください。
⑥	収納証明書はり付け台紙	検定料の支払完了後、入学検定料支払サイトからダウンロードして印刷した「収納証明書」を貼り付けたものを提出してください。
⑦	受験承認書	他の大学院等に在学中の者又は官公庁、企業等に在職中の者は、当該大学院研究科長又は所属長の受験承認書を添付してください。 (様式任意)
⑧	住民票の写し等 (外国人のみ)	現に日本国に在住している外国人は、市町村長又は特別区長の交付する住民票の写し又は在留カードのコピー(両面)を添付してください。
⑨	返信用封筒	受験票の送付に使用するもので、長形3号(23.5cm×12cm)の封筒に、郵便番号、住所、氏名を明記し、郵便切手344円(速達)をはり付けてください。
⑩	TOEFL/TOEICの スコアシート(原本) (該当者のみ)	下記の試験のいずれかのスコアシートの原本を提出してください。 (原本は本学で写しをとった後、返信用封筒に同封して返却します。) また、出願時にスコアシートが提出できない場合は、下記の試験を受験したこと又は受験予定であることが確認できる書類(受験票の写し等)を提出した上で入学試験当日までにスコアシート(原本)を提出してください。 ①TOEFL-iBT 受験者用控えスコアレポート ②TOEFL-ITP スコアレポート ③TOEIC L&R 公式認定証 (Official Score Certificate) ④TOEIC L&R-IP スコアレポート なお、スコアシートは令和元年9月1日※以降の試験を受験したものに限りま (※看護科学プログラムのみ受験日に制限はありません。)
⑪	誓約書(外国人のみ)	本学所定の様式によります。「8安全保障輸出管理について」(18ページ)を参照してください。
⑫	在職期間証明書(社会人特別入試志願者のみ)	3年以上の実務経験を有することの所属長の証明書(様式任意)
⑬	業績調書(社会人特別入試志願者のみ)	次の事項を記載したものを提出してください。(様式任意) 〔ア これまでの業務内容の概要〕400字程度にまとめてください。 〔イ 学会等発表〕すべての報告者名、演題名、学会名、場所、年度を明

		<p>記し、各内容の要約を100字以内で記してください。</p> <p>〔ウ 論文等〕すべての著者名、題名、掲載誌、巻、号、ページ、発刊年 を明記し、各内容の要約を100字以内で記してください。</p> <p>〔エ 著書〕すべての著者名、書名、出版社、発刊年を明記するほか、分 担の場合は題名を付してください。</p>
--	--	---

(注) (1) 本学所定の様式は本学ウェブサイトよりダウンロードし、A4サイズに印刷してください。

(2) 英語以外の外国語で記載されたものについては、日本語訳又は英語訳を添付してください。

(3) 検定料の納付方法

検定料(30,000円)は、入学検定料支払手順(21ページ)に従って、入学検定料支払サイトから支払手続を行ってください。

入学検定料支払サイト <https://e-apply.jp/n/toyama-gs-payment/>

注意事項

- ・検定料のほか、手数料が別途必要です。
- ・支払手続時に登録する「氏名」「住所」等は入学願書に記載する「氏名」「現住所」等と同一にしてください。
- ・出願期間の1週間前から検定料の支払手続が可能です。

なお、納付された検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

- ① 検定料を払い込んだが富山大学に出願しなかった(出願書類等を提出しなかった、又は出願書類が受理されなかった)場合
- ② 検定料を二重に払い込んだ場合
- ③ 検定料を多く払い込んだ場合

(注) 検定料の返還請求の必要が生じた場合は、「検定料返還請求書」により、必ず「収納証明書」をはり付けて、富山大学へ郵送してください。

送付先 〒930-8555 富山市五福3190

富山大学 財務部経理課

電話 (076) 445-6053

3 出願資格認定申請

一般入試の出願資格(9)~(11)、社会人特別入試の(9)、(10)及び外国人留学生特別入試の出願資格(3)、(4)により出願しようとする者は、事前に個別の出願資格審査を行います。必ず事前に下記に照会を行い、期日までに所定の書類を提出してください。

【照会・提出先】

富山大学 医薬系学務課(入試担当)

〒930-0194 富山市杉谷2630番地 電話 (076) 434-7658

(1) 出願資格審査に必要とする書類

- ① 出願資格審査申請書(本学所定の様式)
- ② 学業成績証明書

なお、一般入試の出願資格(11)に該当する者は、出願者の所属する学科等の教育課程表も必要です。

- ③ 卒業(見込)証明書
- ④ 住民票の写し(現に日本国に在住している外国人志願者のみ)
- ⑤ 履歴書(本学所定の様式)
- ⑥ 長形3号の返信用封筒(344円分の切手を貼付し、あて名、郵便番号を明記したもの)
- ⑦ その他必要とする書類

※各証明書は、原本を提出してください。写しが提出された場合は受理しません。外国語で記載されたものについては、日本語訳を添付してください。

(2) 書類提出期限

令和3年10月1日(金)16時まで。

原則、出願は郵送とし、上記期間までに必着とします。

やむを得ず持参する場合は、平日の9時から16時まで受け付けます。期限後の提出は受理しません。

(3) 審査結果の通知

事前審査の結果は、令和3年10月15日(金)までに本人宛に通知書を発送します。

4 合格者発表

令和3年12月9日(木)午後3時、合格者の受験番号を富山大学ウェブサイトに掲載するとともに、本人に合格通知書を郵送します。

なお、電話、E-mail等による合否の問合せには、一切応じません。

5 入学手続

入学手続は、次のとおりですが、詳細については合格者に通知します。

(1) 入学手続 令和4年3月中旬(予定)

(2) 入学手続に必要な経費等

ア 入学料 282,000円(予定額)

(注) ①上記の入学料は予定額であり、入学時に入学料が改定された場合は、改定時から新たな入学料が適用されます。

②納付された入学料は、いかなる理由があっても返還しません。

イ その他

①入学料の納付が困難と認められる場合には、選考の上、免除・徴収猶予されることがあります。

②授業料の納付については、入学後に納付することとなります。なお、納付金額・納付方法については入学手続時に案内します。

<参考>令和3年度授業料 年額535,800円

③独立行政法人日本学生支援機構の奨学金制度があります。

④学生教育研究災害傷害保険制度等の経費が別途必要です。

(3) 注意事項

入学手続期間内に入学手続を完了しない者は、入学を辞退したものと取り扱います。

6 入学志願者の個人情報保護について

本学が保有する個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人富山大学個人情報保護規則」に基づいて取り扱います。

(1) 出願にあたって知り得た氏名、住所その他個人情報については、①入学者選抜(出願処理、選抜実施)、②合格発表、③入学手続、④入学者選抜方法等における調査・研究、⑤これらに付随する業務を行うために利用します。

(2) 出願にあたって知り得た個人情報は、本学入学手続完了者についてのみ、入学前における準備教育及び入学後における①教務関係(学籍、修学指導等)、②学生支援関係(健康管理、授業料免除奨学金申請、就職支援等)、③授業料徴収に関する業務、④統計調査及び分析を行うために利用します。

(3) 本学合格者についての受験番号、氏名及び住所に限り、課外活動団体並びに本学の関係団体である同窓会、後援会及び生活協同組合からの連絡を行うために利用する場合があります。

注 上記団体からの連絡を希望しない場合は、本学医薬系学務課(入試担当)にその旨申し出てください。

(4) 各種業務での利用にあたっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者(以下「受託業者」という。)において行うことがあります。業務委託にあたり、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、知り得た個人情報の全部または一部を提供しますが、守秘義務を遵守するよう指導します。

7 出願上の注意事項

- (1) 出願書類等に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (2) 検定料に不足のあるものは受理しません。
- (3) 受理された出願書類等は、いかなる理由があっても返還しません。
- (4) 入学許可の後においても、提出書類の記載と相違する事実が発見された場合は、入学を取り消すことがあります。
- (5) 出願に関する事項その他についての問合せは、下記あてに照会してください。

富山大学 医薬系学務課(入試担当) 〒930-0194 富山市杉谷2630番地 電話 (076) 434-7658

8 安全保障輸出管理について

富山大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「国立大学法人富山大学安全保障輸出管理規則」を定めて、技術の提供、貨物の輸出の観点から外国人留学生の受入れに際し、厳格な審査を行っています。規制されている事項に該当する場合は、入学を許可できない場合や希望する教育が受けられない、希望する研究活動に制限がかかる場合がありますので、出願にあたっては注意してください。

なお、外国人留学生の方は、出願前に指導予定教員と相談の上、出願時に「外国為替及び外国貿易法」を遵守する誓約書に署名していただきます。詳細については、本学ウェブサイトを参照してください。

【参考】「国立大学法人富山大学安全保障輸出管理規則」

URL <http://www3.u-toyama.ac.jp/soumu/kisoku/pdf/0110401.pdf>

9 障害等のある入学志願者の事前相談

障害等（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱、怪我、発達障害等）があつて、受験上及び修学上特別な配慮を希望する入学志願者は、出願に先立ち、本学医薬系学務課へ事前相談を行ってください。

なお、必要に応じて、本学において入学志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談を行うことがあります。

※事前相談の申請を行った場合でも、本学への出願が義務付けられるわけではありません

(1) 相談期限 令和3年10月1日(金)

(2) 相談方法

本学ウェブサイトから事前相談申請書をダウンロードするか、下記事項を記載した申請書を作成し、医師の診断書（写しでも可）等を添え、本学医薬系学務課(入試担当)へ提出してください。

① 氏名・性別・生年月日・住所・電話番号・メールアドレス

② 志望のプログラム・受験する入試区分

③ 障害等の種類・程度

④ 受験の際に特別な配慮を希望する事項

⑤ 修学の際に特別な配慮を希望する事項

⑥ 出身大学等でとられていた措置（担任教員の所見のあるもの）

⑦ 日常生活の状況

⑧ その他参考となる事項（相談する際の参考資料があれば、併せて提出してください。例：身体障害者手帳の写し等）

（参考）事前相談申請書掲載ページ

（本学トップページ）→「入試情報」→「障害等のある入学志願者の事前相談」

(3) 相談先

〒930-0194 富山市杉谷2630 富山大学医薬系学務課 電話 (076) 434-7658

FAX (076) 434-4545

(注) 日常生活で使用している補聴器、松葉杖、車椅子等を、受験時に使用したい場合も、試験場設定等において配慮が必要となる場合がありますので、必ず事前に相談してください。

事前相談は、障害等のある入学志願者に本学の現状をあらかじめ知っていただき、受験及び修学にあたってより良い方法やあり方を実現するためのもので、障害等のある方の受験や修学を制限するものではありません。

（参考）国立大学法人富山大学障害を理由とする差別の解消の推進に関する職員対応要領

（本学トップページ）→「大学紹介」→「情報公開」を確認してください

10 新型コロナウイルス感染症対策に伴う入学志願者への要請事項

(1) 感染防止のための注意事項

日頃から感染防止について心がけるとともに、朝などに体温測定を行い、体調の変化の有無を確認すること。

(参考) 受験生のみなさんへ～新型コロナウイルス感染防止のための注意事項～

https://www.mext.go.jp/content/20201218-mext_daigakuc02-000005144_1.pdf



(2) 医療機関での受診

試験日の2週間程度前から、発熱・咳等の症状がある受験者はあらかじめ医療機関での受診を行ってください。

(3) 受験できない者

新型コロナウイルス感染症に罹患し、試験日に入院中又は自宅や宿泊施設において療養中の方は受験できません。発熱・咳等の症状がない無症状の濃厚接触者*については、一定の条件のもと、受験できる場合がありますので、事前に連絡してください。

海外から日本に入国して受験する場合、入国後の待機期間中は受験できません。

*濃厚接触者とは、保健所より「濃厚接触者に該当する」と伝えられた方を指します。

(4) 試験当日における対応

・発熱・咳等の症状のある受験者は、試験当日の検温で、37.5度以上の熱がある場合は受験を取り止めてください。また、37.5度までの熱はないものの、発熱や咳等の症状のある受験者は、その旨を試験監督者等に申し出てください。

・症状の有無にかかわらず、各自マスク(白・淡色無地の不織布マスクを推奨、何らかの事情によりマスクの着用が困難な場合は、あらかじめ大学に相談すること)を持参し、試験場では、昼食時以外は常に着用し、休憩時間や昼食時、入退場時等における他者との接触、会話を極力控えてください。ただし、試験中の本人確認時等にマスクをはずすよう指示する場合があります。

・使用済マスク等を収納するビニール袋を必ず持参するようにしてください。

・本学では試験監督者及び試験場係員もマスクを着用します。

(5) 試験当日の服装、昼食

試験当日、試験室の換気のため窓の開放等を行う時間帯があるため、気温に留意し、上着など暖かい服装を持参してください。また、試験場においては、食堂や売店は使用できないため、昼食を持参し、あらかじめ指定された時間内に自席で食事をとってください。

(6) 試験当日は各試験場に消毒液を設置しますので、試験室への入退室を行うごとに、各自手指消毒を行ってください。また、使用済マスクや鼻をかんだ後のティッシュ等は、必ずビニール袋に入れ密閉してゴミ箱に捨ててください。

(7) 予防接種

他の疾患の罹患等のリスクを減らすため、各自の判断において予防接種を受けておくことを推奨します。

(8) 「新しい生活様式」等の実践

日頃から、「三つの密」の回避や、「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗いなどの手指衛生」をはじめとした基本的な感染症対策の徹底を行うとともに、バランスのとれた食事、適度な運動、休養、睡眠など、体調管理に心がけてください。

(9) (3)の受験できない者に該当する場合や試験当日の検温で37.5度以上の熱がある場合速やかに本学に連絡してください。また、試験終了後、14日以内に体調不良が認められた受験者は本学に連絡してください。

(10) 試験当日は、受験者控室及び付添者控室は設置しません。

(11) 新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCONA)をダウンロードしておくことが望ましいです。なお、アプリから通知を受けたことにより直ちに濃厚接触者であることを意味するものではありません。

入学検定料支払手順

※ご利用にあたってはメールアドレス・インターネット接続環境・プリンター（A4出力）が必要です



出願は学生募集要項に記載の必要書類と入学検定料収納証明書を併せて郵送して完了となります。入学検定料支払サイトから登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。



STEP 1 入学検定料支払サイトへアクセス

入学検定料支払サイト

▶ <https://e-apply.jp/n/toyama-gs-payment/> または、
大学ホームページ

▶ <https://www.u-toyama.ac.jp/admission/graduate-exam/graduate/> からアクセス

STEP 2 支払内容の登録

- ①画面の手順や留意事項を必ず確認してください。
- ②入学検定料の支払方法を選択してください。
- ③画面に従って支払内容の選択、必要事項を入力してください。
支払いに必要な番号を控えてください。

STEP 3 入学検定料の支払い

【コンビニ・ペイジー対応銀行ATMで支払う場合】

コンビニ（セブン-イレブン、ローソン、ファミリーマート、ミニストップ、デイリーヤマザキ、セイコーマート）・ペイジー対応銀行ATM・ネットバンキング各種で入学検定料を払い込んでください。

※日本国内のみ利用可能

【クレジットカードで支払う場合】

お手元にクレジットカードのカード情報をご準備の上、画面に従って入学検定料をお支払ください。

（ご利用可能なクレジットカード）
VISA、Master、JCB、AMERICAN EXPRESS、
MUFGカード、DCカード、UFJカード、NICOSカード

※入学検定料の支払いには、別途手数料が必要です。

STEP 4 入学検定料「収納証明書」の印刷

検定料の支払完了後、「収納証明書」を入学検定料支払サイトからダウンロードして印刷し、本学所定の台紙に貼り付けてください。

STEP 5 出願書類の提出

「収納証明書」及び他の出願書類と併せて出願期間内に届くように書留速達郵便で送付してください。

※出願書類の郵送先は学生募集要項を参照してください。



●支払内容の登録完了後は、登録内容の修正・変更ができませんので、誤入力のないよう注意してください。ただし、検定料支払い前であれば正しい内容で再登録することで、修正が可能です。

※「検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は、登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

VI 大学院総合医薬学研究科の概要

総合医薬学研究科は、医学、薬学及び看護学を総合した特色ある教育と研究を礎とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度医療専門職業人又は教育研究者としての人材を育成することを目的としています。

この目的に基づいて、医学、薬学、看護学における普遍的知識・技能、さらに他の教育研究分野と幅広い学問の基盤的能力を修得し、高度な専門的知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、新たな知を創り出す能力を身に付け、総合医薬学研究科が示す学修成果を上げた者に学位を授与します。

なお、令和4年度に改組する全ての研究科及び学環は、4学期制(クォーター制)を採用し、授業科目は、原則として1つのタームを単位として開講します。また、1タームは8週間です。

2学期制と4学期制(クォーター制)の比較表

	学期等の名称			
2学期制	前学期		後学期	
4学期制(クォーター制)	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム

各プログラムの概要

1 先端医科学プログラム

(1) 目的, 学位

先端医科学プログラムは医科学の専門知識を修得して医科学研究を実践し, 研究成果の発表, 研究論文の作成を行った経験を活かし, 専門職医療人としてのスキルアップ, 専門職企業人として活躍, 大学院博士課程へ進学する者を育成することを目的とします。

先端医科学プログラムを修了した者には, 修士(医科学)の学位を授与します。

(2) 授業科目及び単位数(令和4年4月現在)

別表Iのとおり

(3) 教育方法の特例

「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」を適用し, 有職者が離職することなく就学できるよう特別措置を行います。

教育方法の特例を受ける者は, 昼間における履修のほかに, 指導教員と相談して履修計画書を提出した場合, 授業及び研究指導を夜間に履修することができます。その時間帯は, 原則として月曜日から金曜日の18時10分から21時20分を予定していますが, この時間帯以外にも授業科目によっては, 土曜日又は夏季休業等に履修することができます。

なお, 授業時間帯は次のとおり予定しています。

I限 8:45~10:15	II限 10:30~12:00	III限 13:00~14:30
IV限 14:45~16:15	V限 16:30~18:00	
VI限 18:10~19:40	VII限 19:50~21:20	

(4) 課程修了の要件

原則として, 2年以上在学し, 所定の授業科目(含特別研究等)について30単位以上を修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 修士論文の審査及び最終試験に合格することとします。

在学期間に関しては, 特に優れた業績を上げたと認める者については, 大学院修士課程に1年以上在学すれば足りるものとします。

また, 学生が職業を有している等の事情により, 標準修業年限(2年)を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し, 修了することを申し出たときは, その計画的な履修を認めることがあります。

(5) 指導教員研究内容一覧

別表II-1のとおり

2 看護科学プログラム

(1) 目的, 学位

現代社会の多様な要請に応えるために、看護学専門領域における研究や学際的知見の成果を総合的に活用して、保健・医療・福祉の分野で活躍できる高度医療専門職業人又は教育研究者を育成することを目的とします。

本プログラムは研究者コース、専門看護師(CNS)コース（母子看護学分野母性看護CNS及びがん看護学がん看護CNS）、ナースプラクティショナー(NP)コースを設置します。このうち、専門看護師(CNS)コース、ナースプラクティショナー(NP)コースは看護師経験が必要です。また、ナースプラクティショナー(NP)コースは少数精鋭教育を行うため、年間2名程度を目安にします。

看護科学プログラムを修了した者には、修士（看護学）の学位を授与します。

(2) 授業科目及び単位数（令和4年4月現在）

別表Iのとおり

(3) 教育方法の特例

「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」を適用し、有職者が離職することなく就学できるよう特別措置を行います。

教育方法の特例を受ける者は、昼間における履修のほかに、指導教員と相談して履修計画書を提出した場合、授業及び研究指導を夜間に履修することができます。その時間帯は原則として月曜日から金曜日の18時10分から21時20分を予定していますが、この時間帯以外にも授業科目によっては、土曜日又は夏季休業等に履修することができます。

なお、授業時間帯は次のとおり予定しています。

I限 8：45～10：15	II限 10：30～12：00	III限 13：00～14：30
IV限 14：45～16：15	V限 16：30～18：00	
VI限 18：10～19：40	VII限 19：50～21：20	

ただし、専門看護師(CNS)コース、ナースプラクティショナー(NP)コースの実習は、平日昼間に行いますので、ご注意ください。

(4) 課程修了の要件

原則として2年以上在学し、研究者コースにあつては30単位以上(母子看護学を選択した場合は32単位以上)、専門看護師(CNS)コースにあつては母子看護学分野母性看護CNSコース及びがん看護学がん看護CNSコースにあつては54単位以上、ナースプラクティショナー(NP)コースにあつては、急性期領域：65単位以上、慢性期領域：60単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。

在学期間に関しては、特に優れた業績を上げたと認める者については、この課程に1年以上在学すれば足りるものとします。

また、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限（2年）を超えて最長4年間にわたり計画的に課程を履修し、修了することを申し出たときは、その計画的な履修を認めることがあります。

(5) 指導教員研究内容一覧

別表II-2のとおり

3 基礎薬学プログラム

(1) 目的, 学位

基礎薬学プログラムでは、幅広い知識を基盤とする高い専門性と、医学的素養を含む豊かな創造力、人間尊重の精神を基本とする総合的な判断力を培い、薬科学関連領域の研究者・教育者・技術者、及び医薬品の開発や普及を担う専門家として、人々の健康と学術研究の進歩に貢献できる人材を育成することを目的とします。

修了した者には、修士（薬科学）の学位を授与します。

(2) 授業科目及び単位数（令和4年4月現在）

別表Ⅰのとおり

(3) 課程修了の要件

原則として、2年以上在学し、所定の授業科目（含特別研究等）について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとします。

在学期間に関しては、特に優れた業績を上げたと認める者については、大学院修士課程に1年以上在学すれば足りるものとします。

また、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限（2年）を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し、修了することを申し出たときは、その計画的な履修を認めることがあります。

(4) 指導教員研究内容一覧

別表Ⅱ-3のとおり

別表 I 授業科目及び単位数

科目区分	授業科目	開設 単位	備考
大学院共通科目	研究倫理	1	
	科学技術と持続可能社会	1	
	地域共生社会特論	1	
	研究者としてのコミュニケーション:基礎と応用	1	
	アート・デザイン思考	1	
	英語論文作成 I	1	
	英語論文作成 II	1	
	データサイエンス特論	1	
	大学院生のためのキャリア形成	1	
	知的財産法	1	
研究科 共通科目	総合医薬学	1	
	臨床研究の計画法	1	
	解剖生理病態学序論	1	
	解剖生理病態学特論	1	
	病態薬理学序論	1	
	病態薬理学特論	1	
	心身健康科学	1	
	日本語・日本文化	2	留学生
先端医科学プロ グラム科目	基礎臨床医科学概論	1	
	社会医学序論	1	
	社会医学特論	1	
	生体防御医学序論	1	
	生体防御医学特論	1	
	分子ゲノム医科学序論	1	
	分子ゲノム医科学特論	1	
	中枢神経遺伝子工学序論	1	
	細胞内シグナル伝達系序論	1	
	中枢神経薬理学序論	1	
	臨床行動科学序論	1	
	臨床行動科学特論	1	
	病態検査医学序論	1	
	病態検査医学特論	1	
	感覚・運動・脳病態学序論	1	
	感覚・運動・脳病態学特論	1	
	東洋医学序論	1	
	東洋医学特論	1	
	高度先進医療実践学序論	1	
	高度先進医療実践学特論	1	
	救急蘇生学序論	1	
	救急蘇生学特論	1	
	災害危機管理学序論	1	
災害危機管理学特論	1		
先端医科学特別研究	10		

看護科学プログラム科目	プログラム共通科目	A群共通科目	看護研究	2
			看護倫理	2
		コンサルテーション論	2	
		看護管理論	2	
		看護教育論	2	
		看護理論	2	
		看護政策論	2	
	B群共通科目	病態生理学	2	
		臨床薬理学	2	
		フィジカルアセスメント	2	
		臨床推論Ⅰ	2	
		救急看護演習	1	
		健康生活研究計画法	1	
	研究者コース	看護ケアサイエンス学	看護ケアサイエンス学特論Ⅰ	2
看護ケアサイエンス学特論Ⅱ			2	
看護ケアサイエンス学演習Ⅰ			4	
看護ケアサイエンス学演習Ⅱ	4			
看護ケアサイエンス学特別研究	8			
成人看護学特論	2			
母子看護学	母性看護学特論Ⅰ		2	
	母性看護学特論Ⅱ	2		
	小児看護学特論Ⅰ	2		
	小児看護学特論Ⅱ	2		
	母子看護学演習	4		
	母子看護学特別研究	8		
地域・老年看護学	地域・老年看護学特論Ⅰ	2		
	地域・老年看護学特論Ⅱ	2		
	地域・老年看護学演習Ⅰ	4		
	地域・老年看護学演習Ⅱ	4		
	地域・老年看護学特別研究	8		
CNSコース	がん看護学分野がん看護	がん看護学特論Ⅰ(病態生理)	2	
		がん看護学特論Ⅱ(援助論)	2	
		がん看護学特論Ⅲ(がんリハビリテーション看護論)	2	
		がん看護実践演習Ⅰ(診断～手術後までの患者のリハビリテーション)	2	
		がん看護実践演習Ⅱ(薬物療法・放射線療法をうける患者のリハビリテーション)	2	
		がん看護実践演習Ⅲ(緩和ケア・在宅療養中の患者のリハビリテーション)	2	
		がん看護学実習Ⅰ	6	
		がん看護学実習Ⅱ	4	
	がん看護実践特別研究	8		
	母子看護学分野母性看護	母性看護学特論Ⅲ	2	
周産期看護実践演習Ⅰ		2		
周産期看護実践演習Ⅱ		2		
周産期看護実践演習Ⅲ		2		
周産期看護実践演習Ⅳ		2		
周産期看護実習Ⅰ		4		
周産期看護実習Ⅱ	4			
周産期看護実習Ⅲ	2			

看護科学プログラム科目	NPコース	NP基盤科目	臨床推論Ⅱ	2	
			フィジカルアセスメント特論	2	
			疾病・臨床病態概論	4	
			アドバンスプラクティス基礎特論	2	
			アドバンスプラクティス基礎実習Ⅰ	1	
			アドバンスプラクティス基礎実習Ⅱ	1	
			医療安全学	1	
	NP専門科目	アドバンスプラクティス特論Ⅰ	6		
		アドバンスプラクティス特論Ⅱ	4		
		アドバンスプラクティス特論Ⅲ	1		
		アドバンスプラクティス演習Ⅰ	3		
		アドバンスプラクティス演習Ⅱ	1		
		アドバンスプラクティス演習Ⅲ	1		
		アドバンスプラクティス実習Ⅰ	6		
		アドバンスプラクティス実習Ⅱ	3		
		アドバンスプラクティス実習Ⅲ	1		
		アドバンスプラクティス総合実習	6		
		アドバンスプラクティス実践課題研究	3		
		基礎薬学プログラム科目	薬学経済序論	1	
分子化学序論	1				
生物物理学序論	1				
薬理薬剤学序論	1				
分子細胞生物学序論	1				
応用天然物化学序論	1				
応用和漢医薬学序論	1				
分子化学特論	1				
分子設計学特論	1				
生物物理学特論	1				
薬理学特論	1				
薬物動態学特論	1				
分子生理学特論	1				
遺伝子応用分析学特論	1				
分子細胞生物学特論	1				
応用天然物化学特論	1				
薬剤学演習	2				
応用薬理学演習	2				
生体認識化学演習	2				
がん細胞生物学演習	2				
薬化学演習	2				
薬品製造学演習	2				
分子神経生物学演習	2				
遺伝情報制御学演習	2				
分子細胞機能学演習	2				
薬用生物資源学演習	2				
分子合成化学演習	2				
生体界面化学演習	2				
構造生物学演習	2				
薬物生理学演習	2				
医療薬学演習	2				

病態制御薬理学演習	2	
医薬品安全性学演習	2	
薬物治療学演習	2	
臨床薬剤学演習	2	
製剤設計学演習	2	
資源科学演習	2	
天然物創薬学演習	2	
神経機能学演習	2	
生体防御学演習	2	
複雑系解析学演習	2	
未病学演習	2	
生物学演習	2	
ゲノム機能解析演習	2	
薬科学特別研究	10	

別表Ⅱ-1 先端医科学プログラム 指導教員研究内容一覧

分野名 教員名 連絡先	研究内容
解剖学・神経科学 教授 一條 裕之 ichijo@med	モデル動物の利点と非モデル動物の特異性を利用して、情動を調節する神経回路の経験に依存した改変と行動の変容、生得的な防御行動の計算論的解析と進化、神経系と回路の非対称性、を研究する。
システム情動科学 准教授 西丸 広史 nishimar@med	われわれの日常生活において脳が扱う情報量は、毎秒100億ビットにも達すると言われている。ヒトの脳内には、このような膨大な情報のリアルタイム処理を可能にする超並列的な情報処理システム（ニューラルネットワーク）が存在する。この作用原理を解明することは、ヒトの脳に関する理解を深めるとともに現代の情報化社会に大いに貢献すると考えられる。当講座では、脳における外界刺激の感覚認知機構（入力系）、及び感覚認知や記憶に基づいて行動を遂行する行動発現機構（出力系）など一連の脳の高次機能について神経生理学的並びに認知心理学的研究を行い、脳の神経情報処理機構や原理を明らかにすることを目的としている。
統合・神経科学 教授 田村 了以 rtamura@med	21世紀は脳科学の時代であり、われわれ人間の「こころ」の問題をも科学的に解明することが可能になりつつある。本講座では、心の働きの中でも学習や記憶に関する脳内メカニズムを明らかにすることを目的に研究を進めている。そのため私たちは、実験動物（サル、ラット、マウス）を用い、これら動物が学習・記憶課題を遂行しているときやその後の睡眠中に神経活動を記録してその活動様式を解析し、過去に体験したこと（情報）の符号化、貯蔵、および検索が脳内のどこで、どのようにして起こるのかを追求している。
生化学 教授 井ノ口 馨 inokuchi@med	脳は睡眠中や休息時にも活動を続けていること、すなわちアイドリング状態であることが明らかになってきた。脳のアイドリング活動は、従来考えられていた以上に様々な重要な機能を持っていると想定される。当講座では、最先端の神経活動計測・操作テクニックを駆使して、従来アプローチ不可能であった「アイドリング中の脳活動の種々の機能を明らかにし、脳機能に占めるアイドリング活動の位置づけを明確化する」ことを目的とした研究を展開している。
システム機能形態学 教授 伊藤 哲史 itot@med	私達は世界のありのままの姿を感じ取っているのではなく、環境から私達の生存に重要である情報を選び取り、意識下・意識上でさらなる選別を行ったものを知覚している。この生存に重要な情報の選別のために、動物は置かれた環境に最適化した感覚器官や神経回路を有している。本研究室は感覚の中でも特に聴覚に注目して、環境音から動物にとって意味のある音を検出し、それを認知するに至るメカニズムを研究している。様々な実験系を用いることで、知覚、特に聴覚系の脳内符号化や認知のメカニズムの詳細を機能と構造の両面から解明する。
微生物学 教授 森永 芳智 morinaga@med	私たちに常在する細菌叢が、私たちの健康や病気に深くかかわっていることがわかってきている。一方で微生物のなかには、病原性があり感染症を起こすものもいる。培養技術と遺伝子学的解析手法を用いて、細菌叢や病原性細菌・ウイルスを捉え、宿主も含めた異なる生物間のネットワークの影響で形成される健康と疾患を理解する。
分子医薬理学 教授 中川 崇 nakagawa@med	近年、数多くの寿命関連遺伝子・老化関連遺伝子が報告されているが、その多くはエネルギー代謝に関連するものであり、様々な栄養センシング機構が老化に重要な役割を果たしていることが報告されている。NAD(Nicotinamide adenine dinucleotide)は、レドックス反応を司る補酵素であり、生体内のエネルギー状態をセンシングし、エネルギー代謝やストレス応答、DNA修復などを制御することで生体の恒常性維持に関与している。加齢に伴うNAD代謝の破綻は、生理的老化やがん、生活習慣病、アルツハイマー病といった老化関連疾患の発症に深く関わっている。我々の研究室では、質量分析計を用いたメタボロミクス解析や、遺伝子組み換えマウスの解析を組み合わせることで、in vitro からin vivo まで幅広く研究を行い、NAD代謝による老化制御機構の解明ならびに、NAD代謝を標的とした抗老化薬・治療法の開発を目指している。また、メタボロミクスを用いることで、新たな側面から和漢薬

	の薬理作用解明を目指した研究も行っている。
疫学・健康政策学 教授 関根 道和 sekine@med	疫学・健康政策学講座は、疫学研究にもとづく健康政策への貢献をミッションとした講座である。ミッション達成のための疫学研究を実施している。日本公務員研究は、地方公務員約5千名を対象とした社会経済的要因や心理社会的ストレス、ワーク・ライフ・バランスと健康に関する縦断研究で、ロンドン大学ユニバーシティカレッジの英国公務員研究、ヘルシンキ大学のフィンランド公務員研究との国際共同研究である。富山出生コホート研究は、平成元年度生まれの約1万人を対象とした縦断研究である。また、文部科学省スーパー食育スクール事業では、約2千名の小学生を対象とした研究である。両研究では、小児期からの総合的な健康づくりのためのエビデンスを集積している。富山認知症研究は、65歳以上の高齢者約千人を対象とした高齢者疫学研究である。
公衆衛生学 教授 稲寺 秀邦 inadera@med	公衆衛生学講座では、環境保健と生活習慣病予防に関する研究を行なっている。環境保健では、生体の恒常性維持機構にチャレンジしてくる様々な環境衛生上の課題を、現代の生命科学研究のあらゆる技法を駆使し、医学的見地から解析・統合し、一次予防に結びつけることをめざしている。現在「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の富山ユニットセンターとして、子どもの健康に影響を及ぼす環境要因を明らかにするための出生コホート研究を行なっている。生活習慣病対策として、地域や職域における健康増進、一次予防対策に関与している。
法医学 教授 西田 尚樹 nishida@med	当講座の研究は、実際の法医解剖例から生じた鑑定、診断上の問題点を様々な手法を用いて解決し、実務能力の向上につなげることが基本であるが、さらに、その成果を法医学領域に留まらず、臨床医学を始めとした他分野の発展にフィードバックさせるような視点で研究することを特徴としている。また、社会医学講座として、自殺予防に関する提言や、本邦の剖検率の向上やシステムの改善を目指した調査、研究も行い、地域医療や公衆衛生上の諸問題の解決を側面から支援するような研究を行うことを目指している。
分子神経科学 教授 森 寿 hmori@med	脳は感覚情報の処理と運動の制御を行い、思考や行動などを担う器官であり人格の源である。脳機能の物質的基礎となる分子とその機能を明らかにすることが、正常な脳機能と脳病態の理解、診断や治療法の開発に必要である。当研究分野では分子生物学的手法を用いて脳機能の解明に取り組み、特に神経伝達物質受容体やシナプス形成因子を中心とした遺伝子操作マウスを作製し、記憶・学習・情動、社会性等の分子機構を明らかにする研究を行う。
臨床心理学・ 認知神経科学 教授 袴田 優子 hakamata@med	うつ病や不安障害などのストレス関連精神疾患を抱える患者やその発症リスクを有する健常者にみとめられる認知処理上の問題の発生機序について明らかにするとともに、こうした問題の軽減・改善に有効な心理学的な予防・治療法の開発を行っている。認知処理上の問題はしばしば認知バイアスと呼ばれるが、このうち主に注意や記憶（符号化や固定化、検索を含む）に関するものを扱う。
内科学(代謝・免疫・呼 吸器病学) 教授 戸邊 一之 tobe@med	糖尿病患者数は近年増加が著しく、その発症と合併症の予防が重要な課題となっている。糖尿病の発症には遺伝的因子と環境的因子が関わっている。病態を正確に把握し適切な治療を行うためには、糖尿病の原因遺伝子の解明と肥満によるインスリン抵抗性の分子機構を明らかにすることが必須である。現在、最近発表された糖尿病の原因遺伝子をもとにオーダーメイド医療の開発に取り組むとともに、インスリン抵抗性を調節する脂肪組織から分泌されるアディポカイン（アディポネクチンやレプチン）の研究を行っている。また、長寿遺伝子であるSirt ファミリー遺伝子の研究も行っている。また環境的因子として腸内細菌叢が糖代謝に与える影響についての研究を行っている。
内科学(循環器・腎臓内 科学) 教授 絹川 弘一郎 kinugawa@med	循環器疾患は我が国の高齢化に伴い、年々増加の一途をたどっている。長年の生活習慣病から発症する動脈硬化性疾患による虚血性心疾患、高齢化に伴う弁膜疾患、さまざまな心疾患の終末像とも言える心不全、それらを修飾する不整脈、などの病態解明と予防を含めた治療戦略の開発は今後喫緊の課題である。 また、腎疾患は心腎連関といわれるほど循環器疾患とのつながりが深く、一次的に腎臓病を発症する腎炎はもとより心不全により2次的に慢性腎臓病となる機序の研究も大変重要である。

<p>内科学(消化器内科学)</p> <p>教授 安田 一朗</p> <p>yasudaic@med</p>	<p>消化器疾患は多彩であり、その頻度も高い。日本の部位別癌死亡数は肺、大腸、胃、膵、肝の順であり、第2位～5位までが消化器癌である。また、悪性腫瘍以外にも良性腫瘍、炎症性疾患、感染症、機能的障害、結石など様々な病態が存在する。我々の講座では、こうした多彩な消化器疾患の病態解明および診断・治療に結びつく研究を基礎、臨床の両面から行っている。</p>
<p>感染症学</p> <p>教授 山本 善裕</p> <p>yamamoto@med</p>	<p>多様な微生物が宿主に感染することにより起こる感染症は、日常臨床の中で最も遭遇することの多い疾病である。また、わが国における死因の第3位は肺炎であり、感染症は軽症例から致死的な症例、局所感染から全身感染症まで幅広い領域をカバーすることが必要である。感染症を制圧するためには、「感染予防医学」「感染制御学」「感染症学」の全てを理解し、実践していくことが重要である。当講座では感染症に関して、予防・制御・診断・治療のあらゆる方面から多角的に研究を行っている。</p>
<p>皮膚科学</p> <p>教授 清水 忠道</p> <p>shimizut@med</p>	<p>皮膚粘膜は人体の最外層を覆い、人体のホメオスタシス維持に重要な役割を演じる器官である。外界（人体をとりまく環境）と内界（人体の内部環境）を境している皮膚は、外界の変化に対応し様々な変化を生じる。</p> <p>外界・内界の変化は皮膚で捉えられ、炎症、免疫反応、創傷治癒反応、メラニン形成を生じ、多様な変化に対応する。また、内界で生じた変化を皮膚は多様に表現する。皮膚科学は、皮膚粘膜が持つこれらの機能を生化学的、分子生物学的に解析し、皮膚粘膜の病的状態を、外界→皮膚←内界の表現をして捉え、解明する臨床研究を進めている。</p>
<p>神経精神医学</p> <p>教授 鈴木 道雄</p> <p>suzukim@med</p>	<p>精神的に健康な状態は、脳の働きのバランスが維持されることによって支えられている。近年の画像診断技術などの進歩により、精神現象の背景にある脳の構造や機能を、非侵襲的な方法で捉えられるようになってきた。精神疾患についての知見も増加しているが、なお未解明な部分が多い。本講座では、統合失調症などの精神医学領域における重要疾患の病態生理を解明し、客観的な早期診断法と、より有効な早期治療法を開発することにより、長期予後の改善を図ることを目標に、臨床的・基礎的研究を進めている。</p>
<p>放射線医学</p> <p>教授 野口 京</p> <p>kyo@med</p>	<p>医療画像の急速な発展により、高分解能の形態画像のみならず機能画像を得ることができ。機能画像にて生体の機能や代謝を評価することができる。我々は、高分解能形態画像および機能画像を組み合わせることで、新しい早期画像診断法を開発することを目指している。</p>
<p>放射線腫瘍学</p> <p>教授 齋藤 淳一</p> <p>junsaito@med</p>	<p>癌治療に関係する物理的、化学的増感及びこれらによる細胞ストレス応答について研究している。具体的には、放射線、超音波、ハイパーサーミア、プラズマ及び制癌剤を用い、アポトーシスをはじめとする種々の細胞死を標的とした増感分子機構の解明を行っている。さらに、物理的手法による遺伝子導入や遺伝子発現制御に関する研究を行っている。</p>
<p>外科学(呼吸・管理・総合外科学)</p> <p>教授 芳村 直樹</p> <p>ynaoki@med</p>	<p>心臓血管、呼吸器疾患の外科治療では臨床に結びつく研究が重要である。高齢化社会を迎え冠動脈疾患、動脈瘤、末梢動脈疾患、悪性新生物が増加し、ロボット技術、細胞再生治療を駆使した低侵襲術式の開発が急務となっている。一方、新生児乳児を中心とする小児心臓手術では手術の安全性とともに術後遠隔期不整脈などの管理が要求される。体に優しい心臓血管、呼吸器疾患の先端医療の実現を目指す。</p>
<p>外科学(消化器・腫瘍・総合外科学)</p> <p>教授 藤井 努</p> <p>fjt@med</p>	<p>当部門では臨床経験から生まれた疑問を解決し、さらにその成果を臨床の場にフィードバックさせることを念頭においた実践的な研究を行っている。消化器癌（食道、胃、大腸、GISTなど）、肝胆膵領域癌、乳腺・内分泌腫瘍におけるmiRNA、CTCなどを用いた新規予後判定マーカーの同定と解析、各臓器手術に対する新しい手術法・手術器具の開発、漢方薬や癌特異的CTLを用いた新しい癌治療法の研究など、外科学の未来を見据えた新しい研究に挑戦している。</p>
<p>脳神経外科学</p> <p>教授 黒田 敏</p> <p>skuroda@med</p>	<p>脳脊髄神経疾患の治療では、疾病の根治生に加え脳神経機能の温存が目標となる。目的達成のためには、中枢神経系発生のプロセスや再生へのアプローチ、脳高次機能の生理的病理的解明など、未解決の研究課題が山積している。脳神経外科学講座では、動物モデルを用いた脳形成に関する基礎研究、臨床例の症状・検査所見に基づく脳高次機能解析、脳機能温存のための手術機器の開発と臨床研究などを行い、脳に優しい先端的医療の実現を目指している。</p>

整形外科学 教授 川口 善治 zenji@med	運動器は生命の質の維持に直結した器官である。整形外科学講座では、この運動器の各種障害や破綻のメカニズム基盤を解析するとともに、障害された運動器の再建方法の確立、さらに運動器の修復と再生に向けた研究を行っている。運動器学の中で主に扱う領域は脊椎脊髄病学、関節病学、骨軟部腫瘍学である。
産科婦人科学 教授 中島 彰俊 akinaka@med	妊娠は性ホルモン、サイトカイン等の巧妙なバランスにより調節されている。異物である胚（胎児）と母体は巧妙にクロストークして妊娠が成立するが、そのバランスの崩れは妊娠中の様々な異常を引き起こす。産科婦人科学講座では、妊娠初期における流産、および妊娠中後期の胎盤形成不全に起因する妊娠高血圧症候群、早産（胎盤への感染を中心に）について研究を行ってきた。特に、オートファジー（細胞内恒常性維持機構）に注目した研究を行っている。さらに近年では、ヒト検体を用いた診断法へ応用する取り組みも行っており“bench-to-bedside”に取り組んでいる。 また、婦人科悪性腫瘍学では、子宮体癌におけるマイクロサテライト検査high/not-high腫瘍を、末梢血にて診断する方法の開発や、婦人科癌におけるオートファジー制御機構の解明、治療法の開発に取り組んでいる。
眼科学 教授 林 篤志 ahayashi@med	眼科は人間の生活の質にとって非常に重要な視覚を担う感覚器官を研究する分野である。眼球は、他臓器と異なる特徴をもち、独自の研究が必要である。当講座では斜視などにおけるアイトラッカーを用いた眼球運動の定量的解析、MRI画像を用いた眼高疾患の治療効果の評価、網膜虚血再灌流障害モデルにおける神経保護薬の研究などを行っている。また、乾燥羊膜の眼科臨床へのさらなる応用を目指した研究も行っており、眼科臨床に直結した研究を行っている。
泌尿器科学 教授 北村 寛 hkitamur@med	腎泌尿器科学では泌尿器科疾患に対する診断および治療の向上を目的とした基礎研究を行っている。 特に泌尿器癌、排尿機能、男性不妊、性機能障害、腎移植などの研究テーマが主体となっている。
総合口腔科学 教授 野口 誠 mnoguchi@med	口腔は、生命維持にとって不可欠な摂食嚥下機能を司るとともに、人間文化にとって重要な構音器官でもある。この部位に生じる疾患によって、生命予後は悪化し、Quality of Lifeが低下する。口腔疾患の治療は早期発見治療による機能維持と、失われた口腔機能の回復に主眼が置かれる。本講座では、口腔疾患の病態解明と新規治療法の開発、口腔機能再建ならびに機能リハビリに関する総合研究を進めている。
脳神経内科学 教授 中辻 裕司 nakatsuj@med	神経疾患は病態が未解明な部分が多く、有効な治療法が少ない。これは脳神経系への直達的介入が困難であることが一因である。しかしながら最近の画像解析技術、臨床検体の様々なバイオマーカーの測定技術や、神経免疫学的アプローチを駆使することによって新たな診断・治療法が生まれつつある魅力的な領域である。最新の情報と考え方を身につけて新たな病態解明、診断・治療法を創出してゆくことが目標である。 ・多発性硬化症・NMOSD、CIDP、脳卒中などの免疫介在性神経疾患の病態解明と診断、治療選択に有用なバイオマーカー探索研究 ・パーキンソン病など神経変性疾患の病態における酸化ストレスマーカーの研究
血液内科学 教授 佐藤 勉 tsutomus@med	高齢化社会の到来に伴い、造血器腫瘍の罹患患者は増加の一途を辿っている。そもそも造血器腫瘍は抗がん剤に対する感受性が高いため、抗がん剤治療の進歩は血液内科学の進歩とともにあった。より多くの抗がん剤を使えば疾患を治癒に導けるという極端な発想は造血幹細胞移植にたどり着いた。一方で、その治療法の限界は副作用と抗がん剤耐性にあった。昨今の潮流は分子標的療法と抗がん剤副作用の軽減にある。このような社会的なニーズに応えるべく、本講座では実臨床に直結した研究活動を展開している。
臨床腫瘍学 教授 林 龍二 hsayaka@med	<ul style="list-style-type: none"> ・がんゲノム医療の実臨床 ・免疫チェックポイント阻害薬効果と腸内細菌 ・高齢がん患者の疫学調査 ・一般人・医療人のがんに対する意識 ・担がん動物モデルを用いたがん免疫の研究

	<ul style="list-style-type: none"> ・がん代謝の研究 ・がん細胞生物学と標的治療
<p>医療安全学</p> <p>特命教授 長島 久</p> <p>hisashin@med</p>	<p>医学の進歩と国民の価値観の多様化、少子高齢化の進展による社会構造の変化と医療提供体制の変革など、医療を取り巻く環境は大きく変化を見せている。一方で、多彩な職種によって構成される複雑系で提供される現代の医療は高度化・専門化し、医療の不確実性に起因して様々な問題が発生する。近代の医療安全管理は、発生した課題に対する各論的な手法での取り組みが主体であり、体系的な整備がなされていないのが実情である。本研究分野では、医療システムにおけるヒト、モノ、仕組みに着目し、医療を取り巻く様々な課題を様々な方面から分析することで、体系的な医療安全手法の開発を目指す。また、医療を担う人材育成において求められる、医療安全に関わる教育体系の開発にも取り組んでいる。</p>
<p>形成再建外科学・美容外科学</p> <p>特命教授 佐武 利彦</p> <p>toshi@med</p>	<p>形成再建外科・美容外科は、体表面の形態、機能、色調の異常を、手術をはじめ、レーザーやその他の手技で治療を行い、患者の術後QOLを改善・向上させることを大目標としている。顔面・四肢・体幹の先天異常の治療、整容面や機能面をより重視した外傷治療や悪性腫瘍切除後の再建、抗加齢治療・美容外科手術などが主な対象である。</p> <p>10年、20年後を見据え、低侵襲で整容性に優れ、機能障害を残さず、患者満足度の高い治療法創出につながる成果を得ることが、本研究のミッションである。</p>
<p>行動生理学</p> <p>教授 高雄 啓三</p> <p>takao@cts</p>	<p>「こころ」は脳が司る機能のひとつとされている。この機能のために脳はさまざまな情報を受容して処理するが、その最終の出力は個体の行動という形で発現する。現代の科学をもってしても「こころ」を直接的に研究することは困難であるが、その物理的な基盤である脳とその最終的な発現である行動を対象とすることで科学的に研究を行うことができる。当研究分野では、行動遺伝学、行動薬理学、光遺伝学、生理学等の手法を用いて記憶、学習、情動などのこころの物質的基盤の解明、および精神・神経の疾患の病態解明と治療法の開発を目指す。また、これらの研究に用いる新しい遺伝子改変マウスの作製や、生殖・発生工学技術の開発も行っている。</p>

別表Ⅱ-2 看護科学プログラム 指導教員研究内容一覧

分野名 教員名 連絡先	研究内容
<p>基礎看護学</p> <p>教授 西谷 美幸</p> <p>nisitani@med</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看護実践の質的向上を図るための、論理的根拠や方法論、尺度開発等に関する研究 ・看護実践・看護教育・看護管理における、看護の論理抽出に関する研究
<p>成人看護学</p> <p>教授 八塚 美樹</p> <p>ymiki@med</p> <p>教授 安田 智美</p> <p>tomomi@med</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・がん看護に関する研究 ・排泄障害者の社会復帰に関する研究 ・褥瘡予防、創傷ケアに関する研究 ・成人看護教育に関する研究 ・コンピュータ教材に関する研究 ・NPの役割と責任、意思決定支援、チーム医療、多職種連携等に関する研究
<p>母子看護学</p> <p>教授 長谷川ともみ</p> <p>thase@med</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・母性意識に関する研究 ・小児の発育・発達に関する研究 ・母子の相互作用に関する研究 ・母子の家族支援に関する研究 ・母子感染に関する研究 ・小児臨床看護に関する研究

精神看護学 教授 比嘉 勇人 hhiga@med	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルスに関する研究 ・スピリチュアルヘルスに関する研究 ・精神面への看護ケアに関する研究 ・精神看護教育に関する研究
地域看護学 教授 田村 須賀子 tamusuga@med	<ul style="list-style-type: none"> ・地域看護活動の評価に関する研究 ・地域ケアシステムに関する研究 ・生活習慣に起因する健康問題と保健指導にかかわる研究 ・在宅ケア推進に関する研究
人間科学 教授 金森 昌彦 kanamori@med	<ul style="list-style-type: none"> ・人間科学および疾病学に関する基礎的研究 ・医療実践における課題研究 ・病院感染に関する研究 ・天然成分の抗微生物作用に関する研究
行動科学 教授 堀 悦郎 hori@med	<ul style="list-style-type: none"> ・情動およびコミュニケーションに関する行動科学的基礎研究 ・看護技術の効果に関する行動生理学的研究

別表Ⅱ-3 基礎薬学プログラム 指導教員研究内容一覧

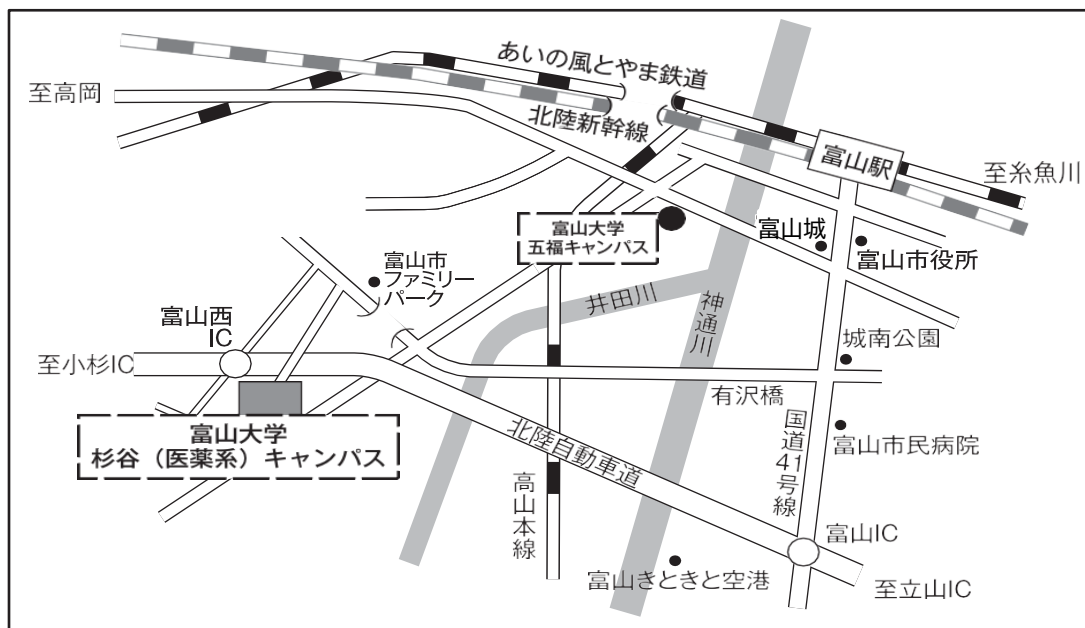
分野名 教員名 連絡先	研究内容
薬剤学 教授 細谷 健一 hosoyak@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・血液網膜関門の輸送機能解析と網膜への薬物送達 ・血液網膜関門細胞の再構築と細胞間相互作用解析 ・生体内関門組織における生理機能及び輸送機能解明
応用薬理学 教授 久米 利明 tkume@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・神経変性疾患, 掻痒, 疼痛および異常感覚の病態形成機構の解明およびその予防・治療薬の探索と開発 ・脳疾患, 掻痒, 疼痛および異常感覚の症状を呈する新規病態モデル動物の作出 ・食品・植物に由来する細胞保護物質の探索
生体認識化学 教授 友廣 岳則 ttomo@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・創薬を効率化するケミカルバイオロジー: 創薬標的を探索する, 可視化する, 利用する, 操作する化学 ・疾患プロテオミクスを促進するケミカルバイオロジー ・合成化学による多成分集積化で挑む創薬ケミカルバイオロジー
がん細胞生物学 教授 櫻井 宏明 hsakurai@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・炎症シグナルによるがん悪性化の分子機構の解明 ・がん分子標的の活性調節機構に関する研究 ・悪性黒色腫の進展を制御する細胞内シグナルの解明
薬化学 准教授 千葉 順哉 chiba@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・合成化学を基盤とするケミカルバイオロジー 特に, 人工 DNA・タンパク制御・糖鎖認識の3プロジェクト
薬品製造学 教授 松谷 裕二 matsuya@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・創薬のための新しい有機合成反応の開発 ・医薬品開発のためのシーズ探索と構造活性相関研究 ・生物活性化合物の合成と構造最適化
分子神経生物学 准教授 田淵 明子 atabuchi@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・シナプス核間の細胞内情報交換と遺伝子発現制御による神経機能調節機構の解明 ・転写因子群, シナプス分子群の機能破綻による神経疾患発症機構の研究, およびそれら分子群を標的とした創薬基盤研究
遺伝情報制御学 准教授 廣瀬 豊 yh620@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・RNA ポリメラーゼ II による転写開始の分子機構研究 ・哺乳動物メディエーター複合体による遺伝情報発現調節機構の研究 ・転写と共役した mRNA プロセシングの制御機構研究 ・遺伝情報制御の破綻に伴う疾患の病因メカニズムの研究

分子細胞機能学 教授 宗 孝紀 tso@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・ TRAF 分子による炎症サイトカインシグナル制御機構 ・ CD4+ T 細胞における TNF 関連分子群の機能解明 ・ 副腎白質ジストロフィーの分子病態の解明
薬用生物資源学 准教授 田浦 太志 taura@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬用植物における二次代謝経路の網羅的解明 ・ 生合成酸素の構造と触媒能の解析 ・ 生合成酵素遺伝子の合成生物学への応用
分子合成化学 教授 矢倉 隆之 yakura@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境調和型有機合成反応の開発研究 ・ 生物活性天然物の合成研究 ・ 生理活性物質の医薬化学的研究
生体界面化学 教授 中野 実 mnakano@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・ 膜脂質のダイナミクスと脂質輸送機構の解明 ・ 脂質フリップフロップの制御機構の解明 ・ アミロイド β と脂質膜の相互作用の解明 ・ 脂質ナノ粒子の構造・機能評価と製剤学的応用
構造生物学 教授 水口 峰之 mineyuki@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾患関連タンパク質のコンフォメーションに関する研究 ・ 細胞内膜輸送の構造生物学的研究 ・ タンパク質立体構造を基盤とした創薬研究
薬物生理学 教授 酒井 秀紀 sakaih@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬物とポンプ、トランスポーター、イオンチャネルの相互作用の生理学、生化学、薬理学的研究 ・ 上皮細胞のトランスポートソーム機能の解明 ・ イオン輸送蛋白質の新規機能連関の解明
医療薬学 教授 藤 秀人 hidetoto@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間薬物療法の臨床応用に向けた基礎研究と臨床研究 ・ 病態の日周リズム形成制御因子の同定による新規医薬品の創製 ・ 患者一人一人に合わせた個別化時間薬物療法の構築
病態制御薬理学 教授 笹岡 利安 tsasaoka@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2型糖尿病の成因解明を基盤とした新たなインスリン抵抗性改善薬の開発 ・ 中枢性の糖代謝調節に関わる臓器間ネットワーク機構の解明 ・ 糖尿病合併症の機序の解明と治療法の開発
医薬品安全性学 教授 橋本 征也 yukiya@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬物動態と薬効・毒性の基礎と臨床、特に疾患、薬物併用、遺伝的多型に伴う薬物代謝酵素とトランスポート機能の変動機構の解析、およびそれに基づく薬物個別投与設計に関する研究
薬物治療学 教授 新田 淳美 nitta@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精神疾患関連分子の生理機能の解明を目的とする行動薬理、分子生物および細胞生物学的研究 ・ 依存性薬物の毒性発現メカニズムの解明 ・ 精神疾患の発症原因を解明するための臨床研究
実践薬学 教授 田口 雅登 taguchi@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別投与設計を目的としたミニマル臨床試験デザインとデータ解析法の開発 ・ 小児発達の個体差を考慮した薬物投与計画の最適化に関する研究 ・ 薬物治療上の諸問題の定式化とその解決に向けた科学的アプローチの実践
臨床薬剤学 教授 加藤 敦 kato@med	<ul style="list-style-type: none"> ・ 糖タンパク質、糖加水分解酵素、糖転移酵素の性質に着目した希少疾患に対する効果的な薬剤シーズの探索と有効性の検証 ・ 糖類似アルカロイドおよび生薬由来化合物をベースとした創薬シーズの探索および和漢薬の効果的な使用法に関する研究 ・ 特定機能性食品および化粧品機能性素材の開発研究
製剤設計学 教授 大貫 義則 onuki@pha	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製剤設計最適化手法の開発研究 ・ 時間領域NMR を利用した製剤物性研究
ゲノム機能解析学 教授 田淵 圭章 ytabu@cts	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細胞分化の機械的制御 ・ 細胞ストレス応答の分子メカニズムの解明 ・ 不死化細胞を用いた生体機能の再構築

天然物創薬学 教授 森田 洋行 hmorita@inm	<ul style="list-style-type: none"> ・天然有機化合物の生合成経路の解明 ・二次代謝酵素の立体構造基盤の確立 ・新規医薬品開発を目指した酵素機能の改変 ・植物、微生物、海洋生物からの生理活性物質の探索 ・アジアにおける未利用薬用資源の探索 ・新規抗栄養飢餓耐性スクリーニング方法を用いた薬用植物資源から天然抗がん剤の探索と開発 ・薬用植物に対する化学研究および生理活性を有する新規二次代謝産物の探索 ・生物活性を有する天然化合物の構造－活性相関性およびがん細胞の生存経路に対する作用機序の研究 ・FT-NMR 及びMS を用いたがん細胞に関連するメタボロームバイオマーカーの探索
神経機能学 教授 東田 千尋 chihiro@inm	<ul style="list-style-type: none"> ・神経機能の活性化に関わる神経回路形成機序，および末梢臓器とのクロストークの研究 ・アルツハイマー病，脊髄損傷，頸椎症，サルコペニアに対する根本的治療を目指した和漢薬研究 ・ヒトの心身の健康状態に影響する要因分析とバイオマーカーの探索 ・和漢薬知統合学を基盤とした研究 <p>1) 機能的な精神疾患（うつ，統合失調，発達障害）の客観的診断法の確立と発症機序解明 2) 心不全再発症を予防する新規治療和漢薬処方開発</p>
生体防御学 教授 早川 芳弘 haya@inm	<ul style="list-style-type: none"> ・NK 細胞のバイオロジーと免疫応答における役割の解明 ・腫瘍微小環境での自然免疫応答の役割に関する研究 ・炎症・アレルギー疾患モデルの病態解析と創薬研究 ・和漢薬による免疫応答および免疫疾患の制御に関する研究 ・がん悪性化・転移阻害をターゲットとした研究 ・腸管内の胆汁酸代謝をターゲットとした漢方薬ならびに食品成分の新しい疾患制御機構の解明
複雑系解析学 教授 中川 嘉 ynaka@inm	<ul style="list-style-type: none"> ・糖・脂質代謝を制御する転写因子の機能解析 ・細胞間，組織間連関による栄養代謝調節の解明 ・和漢薬による生活習慣病治療の評価 ・睡眠異常が引き起こす生活習慣病発症メカニズムの解明 ・統合オミックス解析を用いた情報科学的解析の確立
未病学 教授 小泉 桂一 kkoizumi@inm	<ul style="list-style-type: none"> ・生体情報のゆらぎの理解と医療応用 ・グルタミンナーゼ阻害剤の開発と疾患への医療応用 ・漢方薬から発見した免疫活性化ナノ粒子，および免疫活性化核酸断片の機能解明とその医療応用 ・腸管免疫性疾患の病因及び病態形成機序の解明ならびに治療および発症予防のために有効な薬物の探索とその医療応用
漢方診断学 教授 柴原 直利 shiba1@inm	<ul style="list-style-type: none"> ・漢方方剤や構成生薬の薬理効果及びその作用機序 ・漢方医学的病態や証の指標探索

※別表Ⅱ－1～3に連絡先として本学メールアドレスの一部を記載しました。指導を希望する教員との事前相談にご利用ください。なお，*****@***.u-toyama.ac.jpの*****@***を適宜置換してください。

富山大学 キャンパス位置図



願書受付・試験実施場所 富山大学 杉谷(医薬系)キャンパス

富山大学 杉谷(医薬系)キャンパスへの交通機関

◎ バス

・富山駅南口のバス停留所(3番のりば)から「富大附属病院循環」に乗車、「富山大学附属病院」停留所にて下車(所要時間約30分)

◎ その他

- ・富山きときと空港より車で約25分
- ・北陸自動車道「富山西IC」より車で約5分

学生募集要項、障害を有する入学志願者の事前相談

及び入学試験に関する問い合わせ先

*問い合わせは、やむを得ない場合を除き、志願者本人が行ってください。

〒930-0194 富山市杉谷2630番地

富山大学 杉谷(医薬系)キャンパス 医薬系学務課(入試担当)

電話 (076) 434-7658